



広報紙 46 号 2019年4月21日  
「TAMA市民塾」発行  
〒183-0056 府中市寿町1-5-1  
府中駅北第2庁舎6階  
多摩交流センター内  
TEL/ FAX 042-335-0111

## 平成時代と共に歩んだTAMA市民塾

TAMA市民塾 川村 正徳

平成の30年が終了し、5月から新しい元号「令和」がスタートする。TAMA市民塾は平成7年に公と民の協働で、多摩30市町村民を対象とする広域的な生涯学習の場として、かつ営利を目的としない事業として始まり23年が経過した。TAMA市民塾は、運営スタッフから講師・塾生まで生涯学習という同じ土俵で活動をし、多摩にゆかりの皆が多くの知性を結集し、交流の場を築きあげてきた。

一方この平成30年間で世の中の状況は、次のように目まぐるしく変化した。(1) 家族形態の変化・・・核家族化が進み1人暮らし世帯の急増。(2) 高齢者の増加・・・少子高齢化で平均寿命の変化。(3) バブル経済崩壊後・・・右肩上がりの経済成長から平坦化へ、そして働き方の変化。(4) 災害・異常気象の多発・・・地震・地球温暖化による災害級の気象多発。(5) インターネットの急激な普及・・・世界をシームレス社会へ、そして我々の生活スタイルと意識を大きく変化。(6) 海外では政変、戦争そして経済戦争により不安定な要素が多発・・・しかし、日本国内は平和が継続。

また、TAMA市民塾も、当初は「地域交流、世代交流、国際交流」を基本理念として、スタートした。しかし平成27年の20周年を機に、「講座はコミュニティー」という新たな理念を掲げ、当初の基本理念を基礎に「知縁コミュニティー」に移行した。

なぜ、基本理念を移行したのか。それは、首記に述べた平成30年間の大きな社会変化である。高度成長を支えたのは、企業コミュニティー世代だった。この世代は強い共同体意識と高いモラルを持っていたが、居住地域ではコミュニティーづくりに参加する余裕はなかった。その後、この世代が定年により地域社会に輩出されたが、彼らの参加するコミュニティーはまだ築きあげられていなかった。

そうならば、新しいコミュニティーをつくれないのだろうか。この世代は高度日本経済の担い手であり、素晴らしい知識・経験を持っているのだから。

この新しい「知縁コミュニティー」づくりをお手伝いするのが、新しいTAMA市民塾の理念なのだ。

TAMA市民塾は、府中の多摩交流センターを中心に活動してきたが、昨年府中市以外で「スポット講座」を実施している。様々な講演を実施することで、多摩30市町村に市民塾の「知縁コミュニティー」づくりの「種」が育つことを願って活動を始めている。

「知識が生きる。個性が生きる。頭が回る。体が動く。

だから楽しい。だから面白い。だから次回が待ち遠しくなる。

そんな「TAMA市民塾」を皆さんと一緒に作り上げたい。」

そして、この過去10年間 塾生6,300人の方々と生涯学習の講座を通じてコミュニティーを築いてきた。

## 講座：書いてみよう・作ってみよう

塾生：中村 瑞雄

この講座の担当講師は、稲生達朗(秋月達郎)講師です。

初回の講座がまもなく始まろうとしていた。期待と不安とが入り混じる中、教室では色々な人が動き回っている。どの人が先生なのだろう？最初にこの人かなと思った方は受講生。さっと入ってきて正面前に座った途端に発声。ああっ、この人が秋月先生なのだ。若々しい、格好いい、みなぎる力。落ち着いた語り口からも頼れる先生だと思った。期待あるのみ。

「小説や脚本は、自分の言葉で書かなければならない。そして、そのことが素晴らしいことである」最初から、この言葉が心に突き刺さった。

問題は、『日本語の乱れ』にある。いくら自分の言葉で書くという素晴らしさも、それが間違った日本語であれば、ただの頓珍漢な文章になってしまう。ら抜き言葉、敬語・丁寧語・言葉そのものの誤用など、秋月先生から毎回示されるそれは、困ったことに現代社会の中で広く日常的に使われてしまっている。正しい日本語が追いやられ、乱れた日本語が大手を振って歩いているようなもの。無法者達がのさばっている世の中のように、たまったものではない。嫌になる。そこで自分が書いた文章をみると、そんな奴らが出てくる。情けないことだが、私もやられてしまっている。試練である。日本語の乱れを直すためには、日頃から気を付けるという闘いが続くのである。大変なことだ。

技術的な課題では、文章の基本的書き方や「」などの記号の使い方から文章構成の様々な手法に至るまで、参考になることばかり。特に、登場人物の【運勢】という設定には驚いた。今まで気が付かなかった。人生にとって運は大事なことだと改めて思った。

また、映画で歴史年表を作成するという独創的で壮大な映画紹介は、秋月先生からの貴重な映画の贈り物のようで毎回嬉しい。

そして、水平思考の時間。ある場面やいくつかの情報のみで、その物語の謎を解いていくという課題である。受講生の個性的な発想と先生とのやり取りは、興味深くて気持ちが昂る。物語の意外性や着眼点についてのいい勉強になって、脳の活性化にもなっている。最高に面白い。

秋月先生の要約は、変化に富み濃密で盛り沢山。お土産の資料付きのときもある。とにかく凄い。帰ってから見直したり調べたりすることによって、さらに知る喜びを得られるのもありがたい。これからも大事に使いたい。さらに、新しい要約の最初には<これまでのまとめ>が箇条書きにされ、毎回15分ほどの復習がある。先生の思いやりに感謝。

私は今、これからもこの講座を楽しみにして学び、残り7月末まで頑張って通塾したいと思っている。生き生きと受講している皆さんといっしょに……。

最後に、この文章の中に日本語の乱れがないことを祈っています。

講座：いざ台湾へ！ 失敗しないお茶選びのコツ

講師：佐藤 朋子

ここ数年、台湾がアツイ!!

海外人気旅行先ランキング、4年連続1位。  
飛行機に乗れば3~4時間で着き、週末に弾丸旅行  
だってできる。  
親日で、街なかや観光地でも案外日本語が通じる。  
衛生的で治安も良く、グルメもフォトジェニックも  
期待できる!



さあ、こう聞くと誰でも行ってみたいくなるのでは!!

Taiwan

そんな台湾旅行を満喫した後、さておみやげを買わ  
なきゃ...と思ったときに、まず目につくのが台湾茶ではないでしょうか。

台北では、街中至るところにお茶屋さんがあります。  
台湾茶は、国民のソウルドリンクとして無くてはならないし、海外でも多くの根  
強いファンがいて、実は、需要に供給が追いついていないのです。  
そこでどうするかというと、ベトナムやタイなどで低コストで作られ、輸入してい  
るのです。

台湾みやげに台湾産のお茶を買ったと思っていたら、実はベトナム産だった!と  
いうこともままある話です。

美味しくて、安全で、出来れば安くで...  
そんな“ホンモノ”の台湾茶を見極める知識を  
身につけて

いざ台湾へ!



## 武蔵野の至宝 「名勝小金井」桜

講師 椎名豊勝氏

講師の椎名豊勝さんは樹木医として樹木の診断・治療に携わり、自治体の環境審議会・文化財保護審議会・緑化審議会等の委員、国営昭和記念公園の自然観察ツアー講師をされています。ライフワークとしてサクラと雑木林の研究を続けておられ、一般社団法人日本樹木医会会長及び同東京都支部長としても活躍されています。

大正13年、国の史跡名勝天然記念物保存法により指定された「名勝 小金井（桜）」は、玉川上水の両岸約6kmに植えられたヤマザクラ並木で、現在、小平市・小金井市・西東京市・武蔵野市の4市域にまたがっている。また、小金井のほか、同年には、茨城の桜川・仁和寺（御室桜）・奈良の吉野・荒川堤（現在は無い）の桜が名勝に指定されている。その後昭和25年に文化財保護法に引き継がれ「名勝 小金井（サクラ）」と表示されるようになった。

玉川上水は、1653年、江戸の人口増加に伴う飲料水不足を補う為に計画され、高度な測量技術・土木工事を背景に、多摩川上流の羽村を取水口とし、江戸に至る約40kmの上水路として完成された。途中で分水（千川用水他）された水は飲料水や灌漑用水として利用され、新田開発に大きく貢献した。

武蔵野新田開発に尽力した地方巧者の川崎平右衛門は、1737年将軍吉宗の命を受け、小金井橋を中心とする玉川上水の両岸に、吉野や桜川から山桜を取り寄せ植樹した。これが桜並木の始まりである。当初の目的は、土手の保護・花による上水の解毒等と伝わるが、新田農民の定着化と収穫増にも寄与したものと考えられるとの事。結果として小金井桜は、数十年後には、江戸の行楽地となった。



その後、道路の拡張・一時通水停止等により、桜の生育が阻害され、雑木が繁茂し、並木の様相が変わってしまった。現在、都・小金井市・市民団体がモデル整備地区に指定し、ヤマザクラ並木の復活を目指し活動している。

新小金井橋から梶野橋までが整備されている昨今、こうした小金井桜の来し方を踏まえ、散策するのも一興かと、おはなしを伺った次第です。

（取材 文 駿河哲雄）

### 日曜講座の予定

- 30年10月21日「旧暦を知れば事件・伝統行事が見えてくる」
- 31年 1月20日「(仮)マジックを楽しむ」
- 31年 4月21日「(仮)小野小町」